

# BUDŌ NEWS

## 今月のニュース

### 天皇盃第 76 回全日本男子弓道選手権大会



男子選手権大会の入賞者（左から、柴田〈最高得点賞〉、清水〈4位〉、貝谷〈2位〉、小越〈1位〉、茶山〈3位〉、成田〈5位〉）

### 皇后盃第 58 回全日本女子弓道選手権大会



女子選手権大会の入賞者（左から、大谷〈5位〉、山本〈3位〉、吉田〈1位〉、山田〈最高得点賞・2位〉、山地〈4位〉）



# 第16回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会 鹿島の地に武道の源流集う

第16回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催＝日本武道館、日本古武道協会）が10月5日、鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）で開催された。今大会には古武道の32流派が出場し、鹿島神宮本宮前に特設された演武場で全国各地で保存・継承されている武技を披露した。







主催者挨拶  
日本武道館・日本古武道協会理事長  
川端達夫



歓迎の言葉  
鹿島神宮宮司  
東俊二郎



来賓祝辞  
鹿嶋市副市長  
栗林 裕



開会宣言  
日本武道館常任理事・事務局長  
片岡正徳

武神・武甕槌大神を祀る鹿島神宮での奉納古武道交流演武大会は、2010年に第1回大会が開催されて以来、2020年のコロナ禍での中止を除き現在まで毎年開催されている。各流派の演武は鹿島神宮本宮の前に特設された演武場で繰り広げられるため、参拝に訪れた人々が迫力ある技の数々に足を止め目を奪われる様子がしばしば見られた。

開会式では、はじめに日本武道館の片岡正徳常任理事・事務局長が開会宣言を述べ、続いて川端達夫日本武道館理事長・日本古武道協会理事長が主催者挨拶、栗林裕鹿嶋市副市長が来賓祝辞、東俊二郎鹿島神宮宮司が歓迎の言葉を述べた。

演武は天真正伝香取神道流剣術の演武で幕を開け、大きく飛び跳ねながら瞬時に剣を抜く居合術を披露した。

鹿児島県に伝わる示現流兵法剣術の演武では、演武者が立木に向かって左右の袈裟斬りを行い、その激しい気迫と打ち下ろしに観客は圧倒された。

「柔術の源流」と呼ばれている竹内



①天真正伝香取神道流剣術

流柔術 腰廻小具足の演武には、現宗家・竹内藤十郎氏の子息、秀将氏、勢至氏と子孫の智隆氏の3名が出場。一子相伝の技を披露した。

円心流居合据物斬剣法の演武では巻藁と竹の据物斬が行われ、演武者が巻藁や竹を勢いよく一刀両断すると、観客は感嘆の声を上げ拍手が起った。

正午を過ぎ、演武は後半戦へと進む。群馬県に拠点を置く荒木流拳法は、棒、乳切木、鎖鎌など多種多様な武具を用いた演武を行った。鎖鎌



⑥竹内流柔術 腰廻小具足



④示現流兵法剣術



②荒木流拳法



①円心流居合据物斬剣法



③鹿島新當流剣術



⑤金硬流唐手・沖縄古武術



客席を埋め尽くす観覧者

の演武者は分銅がついた鎖を巧みに操作し、相手の木刀や体に巻き付ける妙技を披露した。

また、同じく鎖鎌の演武を披露した金硬流唐手・沖縄古武術は、沖縄古来の武術を保存する流派であり、棍棒、鉞、トンファー（柱杓）などを用いた形が披露された。

演武納めは、開催地に伝わる鹿島新當流剣術。「面ノ太刀」「七条ノ太刀」「霞ノ太刀」を披露し、本演武大会を締め括った。

（演武の様子は次ページに続く）



術技交流研修会の様子

◆ 本大会は、流派間の親睦を深める「交流」の他に、各流派の若手修行者の技術向上という目的も持つて始動したという背景がある。

実際、大会前日には鹿島神宮境内の武徳殿（道場）にて術技交流研修会が開催され、演武者が他流派の演武を見学する場が設けられた。また、翌日の本番でも出場32流派のうち約半数の15流派は宗家・代表が演武に出場せず、門弟のみで演武を行った。本大会は鹿島の地にしっかりと根付き、日本の伝統文化である古武道が後世に継承されるための重要な役割を担っている。





⑭尾張貫流槍術



⑬心形刀流剣術



③沖縄剛柔流武術



②竹生島流棒術



⑯関口流抜刀術



⑮柳生新陰流兵法剣術



⑦伯耆流居合術



⑤直心影流薙刀術



⑩柳生心眼流體術



⑰戸田派武甲流薙刀術



⑨宝蔵院流高田派槍術



⑧大東流合気柔術 琢磨会



②①鞍馬流剣術



⑩神道夢想流杖術



⑫天道流薙刀術



⑩心月無想柳流柔術





武甕槌大神が祀られている鹿島神宮本宮



③無比無敵流杖術



②③小野派一刀流剣術



②④長谷川流和術

## 【演武者一覧】

- ①天真正伝香取神道流剣術＝荒野祥司、井沼和馬、櫻井俊也
- ②竹生島流棒術＝松浦寛澄、松浦利英、橋口秀雄、石川裕章
- ③沖繩剛柔流武術＝森友瑞貴、ジョセフ・タイト、森友雄斗、久保田恒憲
- ④示現流兵法剣術＝東郷重賢、藤村亨、アンリ・デュルソ、アレキサンダー・ブラッドショー
- ⑤直心影流薙刀術＝谷口克美、横山公仁子
- ⑥竹内流柔術 腰廻小具足＝竹内秀将、竹内勢至、竹内智隆
- ⑦伯耆流居合術＝大窪敏明、井上優一郎、ブラッドリー・ラスコム
- ⑧大東流合気柔術 琢磨会＝三木清明、中岡飛鳥、白井文勇、林哲志
- ⑨宝蔵院流高田派槍術＝西本昌永、加藤了嗣、富山忠和、西堀清作
- ⑩心月無想柳流柔術＝桑波田秀祐、奥村宗一郎、仲尾昭二
- ⑪円心流居合物斬剣法＝高槻幸雄、徳山和彦、山村行仁
- ⑫天道流薙刀術＝木村恭子、木村有里、田室美知子、福田啓子
- ⑬心形刀流剣術＝今西貴久、原謙一
- ⑭尾張貫流槍術＝下村幸裕、下村直樹、赤羽根大介、若尾洋子
- ⑮柳生新陰流兵法剣術＝柳生耕一、瀬上俊顕、永井慶太、堀江明美
- ⑯関口流抜刀術＝中山洋一、林憲一
- ⑰戸田派武甲流薙刀術＝建入久代、永埜浩司、小野貴史、伊藤さやか
- ⑱柳生心眼流體術＝藤澤勝也、白川竜
- ⑲神道夢想流杖術＝神之蘭文男、小塚禮子、森島康文、清水裕子
- ⑳荒木流拳法＝西川二郎、細野桂一、鈴木崇史
- ㉑鞍馬流剣術＝柴田章雄、吉田穰寛
- ㉒長谷川流和術＝倉田勝己、逸見彰一、石原賢一、小野晴佳
- ㉓小野派一刀流剣術＝矢吹裕二、石崎徹、門松猛、庄嶋卓司
- ㉔立身流兵法＝加藤紘、加藤敦、石毛勝也、前田稠
- ㉕大東流合気柔術＝近藤昌之、白山秀遠、河野純一、滝口太士
- ㉖神道無念流剣術＝小川武、萩崎昭、土屋正則
- ㉗無雙直傳英信流居合術＝関口高明、中野園子
- ㉘天然理心流剣術＝常田貞行、時田由記、小林恵子、須田英宏
- ㉙金硬流唐手・沖縄古武術＝早坂ゆかり、早坂義文、江幡妙子、佐々木透
- ㉚北辰一刀流剣術＝高山陽好、上田忠夫、兼子勝喜、桐原英夫
- ㉛無比無敵流杖術＝根本憲一、沢幡伸男、村木浩治、小國英智
- ㉜鹿島新當流剣術＝今井淳也、小松壽政史、保立航、浜本源太



㉕大東流合気柔術



㉔立身流兵法



㉗無雙直傳英信流居合術



㉖神道無念流剣術



㉚北辰一刀流剣術



㉘天然理心流剣術



## 天皇盃第76回全日本男子弓道選手権大会

# 小越智就錬士五段が 歴代最年少優勝

天皇盃第76回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第58回全日本女子弓道選手権大会が9月19～21日の3日間（男子開会式19日、男子大会・女子開会式20日、女子大会21日）、東京都渋谷区の全日本弓道連盟中央道場で開催された。全国各地の予選を通過した97名（男子49名、女子48名）が出場し、覇を競った。

男子の天皇盃（9月20日）は小越智就（東京）が初出場で優勝に輝いた。女子の皇后盃（9月21日）は吉田希望（北海道）がこちらも初出場での優勝を果たした。



皇后盃第 58 回全日本女子弓道選手権大会

吉田希望錬士六段が  
初出場で大会制覇





## 天皇盃・男子

予選では柴田誠一（栃木）が4度目の出場で初の最高得点賞に輝いた。

決勝には昨年優勝した山田勝也（静岡）をはじめ10名が進出。その中の4名は初出場ながら決勝へと駒を進めた。

決勝では天候が悪化し、雨が降ったりやんだりする状況の中で行われた。各自10射（一手5回）で、優勝者が決まらなかった場合は、決まる

まで射詰<sup>いづめ</sup>競射が行われる。8射まで終わって小越と貝谷佑一（千葉）が全中で並ぶ。両者ともに最後の一手でも決め、勝敗は優勝者決定の射詰競射へもつれる。小越が1射目を決めると、続く貝谷が的を外し、試合は終了。小越が28歳の若さで選手権を制し、第43回大会優勝の増渕敦人氏（当時29歳）の持つ同大会の最年少優勝記録を塗り替えた。また、2位の貝谷と3位の茶山礼宜（愛知）も初出場ながら堂々の上位入賞を果たした。



最高得点賞＝柴田誠一教士六段（栃木）



3位＝茶山礼宜錬士六段（愛知）



2位＝貝谷佑一錬士六段（千葉）



# ○男子優勝者インタビュー



## 小越智就 錬士五段（東京）

——優勝した今の気持ちを聞かせください

「言葉が出ないくらい本当に嬉しいです」

——決勝を振り返っていかがでしたか

「今日は予選の時から中々こたわることより自分の射形であったり、取り組んできたことを出し切るという心づもりで臨んだので、特に決勝

も予選も変わらず引き続けられました」

——最年少で選手権を制しました  
「若くして優勝したということで、自覚を持って今後も精進してまいりたいと思います」

——初の選手権出場にあたってどのような気持ちで臨みましたか

「初出場で段位・年齢も若いので、そこまで気負わずに臨めました。挑戦者の立場で今の自分の実力を評価してもらおうという気持ちでした」

——今後の目標について

「他の選手に負けないように切磋琢磨（せつさくたく）していきたいのと、今回足りていなかった射品射格の向上などに努め、いずれは最高得点賞も取れるように稽古を積んでいきたいと思っています」

## ▽入賞者コメント

### ◎最高得点賞Ⅱ柴田誠一 教士六段

「最高得点賞を取れたのは本当に嬉しいですが、悔しい気持ちです。昇段審査からいい流れで選手権に挑戦できました。来年も選手権に出場したいですし、優勝を目指していきたいです」

### ◎2位Ⅱ貝谷佑一 錬士六段

「初出場なので、予選を通過できるかもわからない中で決勝に進めたので嬉しい気持ちでした。決勝では教わってきたことを一本でも多くのに飛ばせるように無我夢中でした。来年も選手権に出場できるように頑張ります」

立順	氏名	所属	予選			決勝												
			的中数	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目		的中	遠近競射	順位
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	松田 智行	青森	3	1427	4	×	○	○	○	×	×	×	○	×	○	5		
2	山田 勝也	静岡	4	1449	2	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	7		
3	柴田 誠一	栃木	4	1459	1	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	5		
4	櫻田 紀行	香川	3	1425	5	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	6		
5	小越 智就	東京	4	1416	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1
6	成田 祐也	秋田	2	1418	7	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	8	3	5
7	貝谷 佑一	千葉	4	1415	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		2
8	中橋 龍一	群馬	4	1424	6	○	×	×	×	○	○	○	×	○	○	6		
9	茶山 礼宜	愛知	4	1416	8	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	8	1	3
10	清水 北登	長野	3	1429	3	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	8	2	4





3位＝山本真理子教士七段（石川）



最高得点賞・2位＝山田直美教士七段（大阪）



女子選手権大会決勝

## 皇后盃・女子

前回大会優勝の有澤千秋（鳥取）は、各自4射（一手2回）の予選で1中にとどまり、得点も振るわず予

選敗退となった。最高得点賞には今大会最多20度目の出場となる山田直美（大阪）が輝き、第43回大会以来自身2度目の優勝に向けて好発進した。

雨は降っていないものの、安定しない天候の中で決勝は行われた。

また、決勝と閉会式には高円宮妃殿下のご臨席を賜った。

決勝は8射まで終えて吉田が7中、その後を予選で最高得点賞を獲得した山田と、山本真理子（石川）が6中で追う展開に。2射決めれば優勝が決まる吉田は、プレッシャーがかかる中、研ぎ澄まされた集中力で的を射抜き、見事に2射を決めきり9中で初出場での優勝を決めた。優勝は逃したものの山田も最後の2射であ、2位に輝いた。山本は10射を終えて7中になり、山地菜央（岩手）と並んだ。遠近競射の末、山本が3位入賞を果たした。





○女子優勝者インタビュー



吉田希望 錬士六段（北海道）

——優勝した今の気持ちを聞かせください

「すごい栄誉のある賞をいただけたので、憧れていた場所に辿り着けた半面、それに見合う自分であるのかという疑心暗鬼とともに一層身が引き締まる思いです」

——初出場での優勝について

「的中ではないところを気にしてお稽古をしていたのに、それがなくなってしまうのではないかと、的中重視になっていたのではないかと

いう反省があります」

——決勝を振り返っていかがでしたか

「個人戦が苦手なので、団体戦の意識を持って臨みました。同じ立ちの方たちと励まし合い、楽しみながらできたと思います。9中が決まった瞬間は喜びよりも安心の方が大きかったです」

——大会を通していかがでしたか

「憧れていた先生方がたくさんいらっしゃって、浮つく心を抑えるのに必死でした。経験を重ねている先輩方の佇まい、控え室での過ごし方なども含めて非常に勉強になりました」

——今後の目標について

「まずは教士の審査を控えているので、そこに向けて今回と同じような弓を引ければと思います」

▽入賞者コメント

◎最高得点賞・2位

山田直美 教士七段

「（最高得点賞を）いただけたと思っていなかったので、本当にびっくりしたというのが一番です。予選で

はものすごく力が入ってしまい、悔いが残る出来でしたが、決勝での10射ではその反省を活かして、丁寧に引こうと思いました。自分の理想とする弓を毎日続けていけたらと思います」

立順	氏名	所属	予選			決勝												
			的中数	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目		的中	遠近競射	順位
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	吉田 希望	北海道	3	1402	5	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	9		1
2	山本 真理子	石川	4	1386	6	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	7	1	3
3	深澤 小夜	山梨	3	1386	7	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	1		
4	山田 直美	大阪	4	1408	1	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	8		2
5	中川 美枝	愛知	3	1385	8	×	○	×	×	×	○	○	×	×	○	4		
6	渡部 安希子	群馬	4	1402	4	×	×	×	○	×	○	○	×	○	○	5		
7	柴田 恭子	山口	3	1385	9	×	○	○	○	×	○	×	○	×	○	6	2	
8	山地 菜央	岩手	2	1385	10	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	7	2	4
9	大谷 素子	滋賀	4	1407	2	×	○	○	○	○	×	○	×	×	○	6	1	5
10	松澤 かおり	埼玉	4	1406	3	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	6	2	